



私が学生時代の所属した東京電機大学ワンダーフォーゲル(WV)部は安達太良連邦の麓の塩沢温泉にクラブとしての山小屋を持っている。その小屋ができてから今年は 45 年目になる。そんなわけで 1972~79 年は私を含む 5 人くらいのメンバーが中心になって、正月は安達太良山の頂上直下にテントを張って迎えて、2 日にこの山小屋に泊まるというのが年中行事になっていた。その後も安達太良山には、雪山へ連れて行ってくれなどと言われたときに何回か行った。この山小屋で OB 会が行われ、後輩の千野君が 2 代目の OB 会長に選出されたので私も参加した。このうちの 6 名が翌日に箕輪山(1728m : この山塊の最高峰)に登った。全員が中期高齢者であり、前日は飲み過ぎ、道は前日の雨でグチャグチャという条件で、それにもかかわらずにぎやかにペチャクチャしゃべりながらの山登りであるのでそのペースの遅いこと、かつては周りの人たちを追い越しながら歩いていたのにこの日は地元の人たちに追い越されっぱなしで、コースタイムの約 5 時間を 2 時間近くもオーバーした。まあ仮にベストコンディションであったとしてもペースは同じであったとも思うが。

私はこの山小屋建設というものには反対であった。ワンダーフォーゲルというものはいろいろなところをホツキ歩くのが本来の姿であって、拠点を持つということはその本来の姿とはかけ離れるものであるという考えであった。その後の私の山生活もその考えに沿ったものとなった。



ここの紅葉は素晴らしかった。ヒマラヤなどの世界中の高山にも行ったが、4000m以上の高い山はもうもうとした砂状のところが多いので山の美しさという面では芳しくない。そこへ行くと日本の山には四季に応じてその美しさを見せてくれるので最高である。また古世代に収縮された地形であるので、ヨーロッパアルプスなどに見るような大陸的大きさの美しさとは違った、独特の美しさを持つ。秋の紅葉はその中でも格別である。